



長崎青年協会憲章
 我々は会員の団結と
 相互扶助の精神の基に
 自己の建設と
 会員の親睦を回り
 もって地域社会の発展に
 寄与する事を目的とする

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION

社団法人 長崎青年協会

スローガン 本気で語らい実行し、そして新たな歴史を創りだそう



トーマス・ブレーク・グラバー



倉場 富三郎

今月の行事

- | | | | | |
|-------|------------------|---|------|-----|
| 8月18日 | 理事会 | } | 9月5日 | 理事会 |
| 20日 | ふうせんバレー
ボール大会 | | | |
| 28日 | 新人研修
(家族懇親会) | | | |

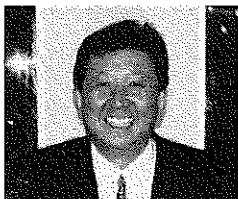
NYA press no.182
August 1994

8

発行 長崎市魚の町7-7
 (社)長崎青年協会
 会長 藤田啓伍
 編集 広報委員 猿渡卓
 広報委員長 猿渡卓

7月定例会開催 夫婦同伴100%例会

平成6年7月21日(木)
於 ホテルニュー長崎

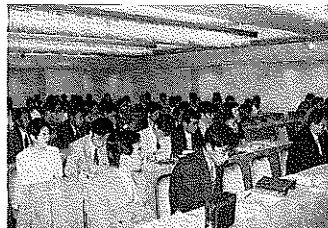


7月21日、ホテルニュー長崎に於いて7月定例会が開催されました。今回は100%例会の夫婦同伴の形で行われました。例会委員会の努力により、多数の会員の出席と奥様方の参加をいただきました。

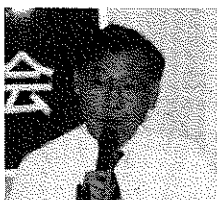
◆会長あいさつ

7月例会は、夫婦同伴となっており奥様方の御出席ありがとうございます。今年も1/3を過ぎようとしていますが、「ながさきみなとまつり」・「ふうせんパレール大会」等の全体事業が多くなり御主人が毎晩協会活動に出られるのも奥様方の御理解と御協力のお陰です。

この協会の中には、色々な職種の方々がいます。その中で、お互いに学び、自分を高め、真の友を作り、大人として成長していける会です。今後とも快く御主人を今まで通り出して下さりますようお願いいたします。



◆講師講演



7月の講師には、長崎大学教育学部 糸山景大教授を御迎えし、「ゴミ問題を考えるために」と言う表題で講演をいただきました。

まず環境問題の分類からお話を進められました。地球温暖化や酸性雨等、排ガスを原因とする環境問題ですが、長崎を始めとする日本では、意識が薄いのではないかということです。大気圏にたまった排ガスが引き起こす地球温暖化に伴う氷の溶解によって海面が上昇する。もしそうならば国土の大半を失うオランダや酸性雨で森林の枯れのひどい東ヨーロッパ諸国では、非常に切羽詰まった問題として受け止められているんです。

次にこれは、思い浮かびにくいことですが、情報に関する環境問題です。例えば、若者による暴走バイクの騒音は彼らにとっては、ストレスを発散できる音であるかもしれませんが。又一般の人にとって、長崎の音の代名詞といってもよい浦上教会の鐘の音が、近所に住む人にとっては、非常に騒々しい音であったり、個人の価値観に強く依存する問題についてもお話がありました。こういった問題については、一方的な論理で決めつけるのではなく互いに深く話し合うことで解決してゆく必要があるようです。次にテーマである廃棄物処理の問題に移ってゆかれました。廃棄物の分類に始まり、ゴミ埋め立て地の枯渇の問題、この問題の解決方法は、再利用すなわちリサイクルを有効に推し進めることにつきますということでした。

ただ現在では、リサイクルについてまだまだ問題点が山積みです。生産者側の問題としてリサイクルが困難な複合物等がまだまだ多く、容易なリサイクルを前提とした物の生産をもっと考えていただけないかということです。またそれについては、デポジット制の導入が必要になってくるのではというお話もされました。これによって手軽さや便利さのみを追求しがちな消費者に、自然にリサイクル意識を植え付けさせることができるのではないかということなのです。又行政側の問題としては、ゴミ問題について、市民にもっと行政の理念の提示を行ない、協力を求め又もっと有効なリサイクルのシステムを構築していただきたいということです。最後に市民・生産者・回収業者・行政。四者が一体化して問題にあたらなければならないという結論でまとめられました。

＜7月定例研修会＞

平成6年7月19日(火)
於 (社)長崎青年協会事務局

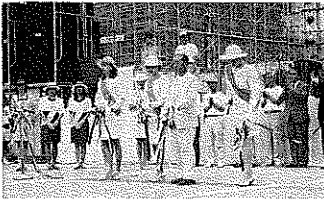
7月の定例研修会は、7月19日(火)、事務局で、講師に木下哲也君を迎え行われました。

テーマは、「あなたにあった旅行の仕方」で、出席会員の質問形式という研修会となりました。夏休み前ということもあり、一家の大黒柱である会員の面々としては、時に、家族でいかに安く旅行に行けるかが、関心であったようです。しかし、やはりというべきか、徐々に話しは、参加者の最大の関心事に移ってゆきました。内容について詳しく知りたい方は、特別に格安で伝授いただけるそうです。



ながさきみなとまつり開幕

於：松ヶ枝国際観光埠頭



長崎港をテーマにした「ながさきみなとまつり」が7月29日～31日の3日間、松ヶ枝国際観光埠頭をメイン会場にさまざまなイベントが繰り広げられました。

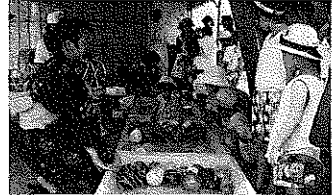
オープニングセレモニーには、ミス長崎など全国8都市のミス18人も参加し、県警カラーガード隊の見事なパフォーマンスに続き開会宣言、石丸太郎運営委員長によるテープカットが行われ、鯨太鼓の演奏が始まり、3日間のまつりの幕明けを告げました。当日は祭りのエリアで民謡総踊り、ライブコンサートも賑やかに行われました。

●ベイフェスタゾーン

会場では、多くの出店が有り、ネットワーク市民の会で所属各団体のアピール展示会場を設置し市民の休憩所として利用していただきました。

青年協会は企画委員会が軸となり、このゾーンの管理を行いました。

緑日ブースでは、ヨーヨー・金魚すくい・スーパーダイス・フリースローゲーム・サッカーゲームと色々なゲームコーナーを作り、たくさんの子供たちに楽しんでもらいました。



●“留学生と市民の集い” in パレード

7月30日(土)、観光通りより盛大にパレードがスタートしました。長崎県警音楽隊を先頭に、オープニングでも華やかだった全国8都市のミス18人も続き、浴衣姿の女性や若者など市民約千人が参加したパレードでした。この中で、青年協会の国際開発委員会が“留学生と市民の集い”の第2弾として企画し、留学生と市民が一緒になって世界の民族衣装に身を包みパレードに参加しました。このパレードは、お祭りとしてのパレードだけではなく、色々な交わりのあった長崎港の歴史の中には、国は違えど市民レベルでの交流があったと思います。この市民レベルの交流こそが、本当の国際交流に結びつくと考え、深い歴史あるこの長崎の地をともに歩き、汗をながし、楽しむことにしました。

パレードが終わり、第3弾の四海楼の懇親会でも互いに、「暑かったけど、おもしろかったね。楽しかったね。」と言葉を交わしながら、話はずみ、楽しいゲームで盛り上がり、和やかに懇親会も終了しました。

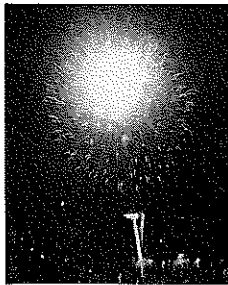
サブタイトルにある“心と心のふれあいは交流のはじまり”も、成功と言っていいでしょう。



サブタイトルにある“心と心のふれあいは交流のはじまり”も、成功と言っていいでしょう。

●ナイトクルーズ

「ながさきみなとまつり」の2日目。祭りは真最中で会場は大勢の人で賑わっている中、復元唐船「飛帆」での「港クルーズ」が行われました。この企画は事業委員会が飛帆による長崎港体験航海の中で船上生活に触れ、船上から見る長崎の港や史跡について学んでもらうという共通の体験を通して「親子のふれあいの大切さ」を再認識してもらう事を目的として行われました。内容は「ナイトクルーズ」と翌日の「デイクルーズ」が有り、まずこの日は、ナイトクルーズが行なわれました。「広報ながさき」を見て応募して来た一般市民約5百人の中より抽選で当選した親子ペア50組が祭りの



港クルーズ(ナイトクルーズ)

会場である松ヶ枝埠頭に集まりました。殆どの人が飛帆に乗船するのは初めてだったらしく、その木造船を見る目はこれからの体験航海への好奇心と当選できた喜びに満ち溢れていました。夕刻、船は乗員乗客約100人を乗せ、夕日の沈む長崎港内へと出航。陽が沈んだ頃、船を港内に停泊しクイズ大会を行いました。クイズは松島孝之君の司会で進行開始。最初は簡単なクイズから始まり子供たちは一斉に回答権を得ようと手を上げました。クイズは、長崎の港の歴史や史跡に関する問題が出題され、後になる程、難しい問題になりました。大人も頭を抱え込む問題も有り、意外にも子供達の方が正解を答えたりしてしていました。

クイズに正解すると景品が貰え、参加者達は我先にと手を上げていました。ラスト3問は「飛帆」に関係する問題が出題され、正解者には飛帆オリジナルグッズがプレゼントされ、盛り上がりの内にクイズ大会は終了しました、その後、船は海上花火大会が行われる松ヶ枝埠頭沖へと進み、真夏の夜を彩る花火見物へと移りました。花火の打ち上げが始められると、全員夜空いっぱい広がる花火に目を奪われ、この日の祭りのフィナーレを飾るこの祭典に空を見上げるばかりでした。

●ダイクルーズ



「ながさきみなとまつり」の最終日の7月31日(日)、長崎市内の小学生4～6年生の親子ペア40組が応募により集まり、伊王島への体験航海が開催されました。

朝8時30分より開会セレモニーが行われ、その後9時にポートパークを出航しました。飛帆の中では、子供たち全員水着に着替えデッキ掃除を行ないました。最初とまどっていた子供たちも最後の方はずぶぬれになりながらも楽しく掃除しました。10時30分予定通り伊王島到着。

伊王島の小学生との対面式

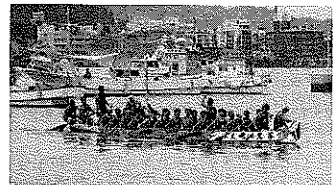
まずは、小島海水浴場で海水浴とすいか割りを楽しみました。ただ時間が1時間程しかなかったのが残念のようでした。その後、伊王島開発総合センターにおいて伊王島の小学生と対面式を行い、その後まちにまった昼食会。用意されていた刺身や照り焼きなどがあっというまになくなってしまいました。昼食後それぞれ班に分かれ、伊王島のお年寄りの指導のもと、竹とんぼや水でっぽうなどの竹細工作りが行なわれました。子供たちの親も一緒になってなれない手つきで竹細工に取り組み、みんな最後は出来上がったものをおみやげにもって帰ることができました。あっという間に出航の時間になり、伊王島の人々と別れを惜しみながら飛帆に乗り込みました。帰りは、伊王島の子供達の代表の23名と一緒に長崎まで乗り込み、飛帆でのダイクルーズを楽しみました。途中では、長崎港で行なわれたペーロン大会の決勝の催しを船上から見学し、午後4時10分無事にポートパークへ到着。会長あいさつの後解散し、参加された親子の方々は夏休みのたいへんすばらしい思い出になったと喜んで帰って行きました。

その後、伊王島の子供たちは新地でチャンポンを食べ、中にはあまりに食べすぎてお腹が苦しくなった子もいましたが、たいへん楽しんで伊王島へ帰って行きました。

ご協力を頂きました皆様、大変お疲れ様でした。

●ペーロン

「ながさきみなとまつり」の最終日31日(日)には「長崎ペーロン大会」が行われました。ドラと太鼓のリズムにあわせて“海の男たち”が豪快なかいさばきで熱戦を繰り広げました。我等の青年協会もこの大会に出場しました。大会は一般、職域、中学生対抗の3部門に分かれ約1,400人が参加、往復1,300mでタイムを競いました。



長崎ペーロン選手権大会

結果、入賞の壁は厚く、反省点も多くありました。しかし、協会選手全員、来年へ向けての意気込みは熱く燃えています。来年は是非がんばって下さい。

第2回 風に想いを…… 「ふうせんバレーボール」 ふれあいinながさき



ふうせんバレー
ボール用ポスター

8月20日(土)に、県立総合体育館・メインアリーナにて行われる「ふうせんバレーボール」のTシャツのデザインとポスターが出来上がりましたので、此に掲載します。尚、当日は多数の人員を必要としますので、会員の方々は一人でも多くの参加をお願いします。

またOBの方々にも「ふうせんバレーボール」のよさをもっと知ってもらいたいと思いますので、是非、御参加及び御助力の程を宜しくお願い申し上げます。

是非、多数の参加をお願いします！



Tシャツ用デザイン画

夫婦同伴懇親会

於 元船平安閣

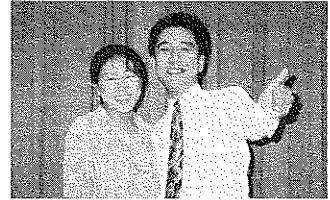
定時例会後、元船平安閣にて懇親会が行われました。今回は夫婦同伴懇親会となっており、多数の会員御夫婦が参加しました。懇親会は和気あいあいとしており夫婦仲もまた一段と深まったと思います。

歓談中は夫婦同伴ゲーム「夫婦で折れて折れて抱き合って」が行われ各御夫婦とも、悪戦苦闘していました。このゲームではデッドヒートの末、渋谷御夫妻が、見事、愛の力で勝ち残り優勝しました。平安閣提供の優勝賞品は「夫婦茶碗」。末永く夫婦和合であってほしいものです。また当日、優勝を逃した御夫婦も更なる夫婦愛を深めていた様でした。

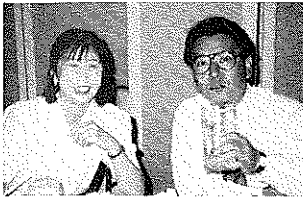
今回、夫婦同伴例会にて夫婦仲診断が100%の御夫婦は、合六・中村御夫婦でした。そこで懇親会場でパーセンテージの高かった御夫婦の奥様にインタビューを行いました。



白熱のゲーム風景



優勝の渋谷夫妻



合六御夫妻 妻 富美子さん

診断率 100%!!

信じられない、50%あったら良い方だと思う、永い付き合いでお互いに空気の様な存在。協会に入れて良かった事もあったが困った事もありました。



清水御夫妻 妻 由美子さん

診断率 96%

週に3回は二人でパチンコをしています。パチンコの腕は夫が上手いです。いつも二人で飲みによく行きます。協会へ入会させて良かったです。お互いに出会えて良かったです。



桑田御夫妻 妻 純子さん

診断率 94%

主人に対しては無関心ですけどそれは信頼の証です。日頃、夫は忙しくて家にいない事が多いので出来るだけ家に居る時は家族を大切にしてくれます。あともう少しで卒業なので最後まで無理をしないで悔いの残らない様に頑張ってほしいです。

◁ 新人紹介 ▷



桑岡 隆太君

S39年 8月21日生 (29歳)

勤務先 (株)信和塗装 代表取締役
(とび・防水・塗装)

長崎市古河町4-16

自宅 長崎市東琴平1-2-5

7月度100%例会を終えて

会員皆様方又奥様方の御協力を得まして、多くの参加を頂き誠に有難うございます。7月の忙しい時期に万障繰り合わせて頂いた結果と感謝しております。例会委員会としても、出席して良かったと思える例会創りを今後とも目指して行きたいと思えます。

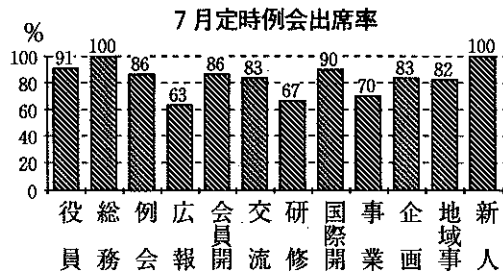
例会委員会 板倉 和人

ボーリング懇親会

団体戦結果発表

去る6月21日に行われましたボーリングの委員会对抗の結果は下記のようになりました。

- 優勝 交流委員会 344ピン
- 準優勝 地域事業委員会 343ピン
- 3位 企画委員会 342ピン



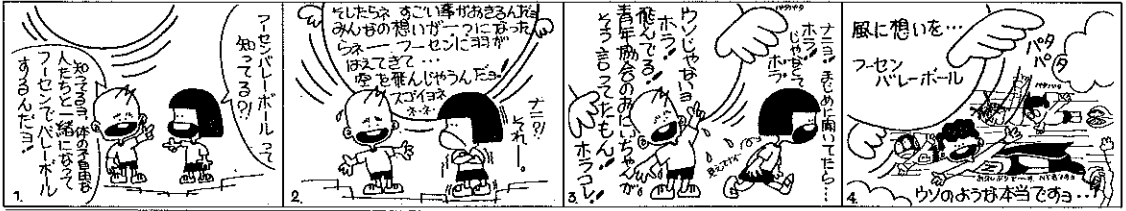
ゴルフ同好会

去る7月14日(木)滑石ゴルフ場にて、森会長杯取り切り第一回桑田会長杯、並びに厄入りコンペを開催致しました。猛暑の中、見事、優勝、取り切りに輝いたのは桑田会長でした。ちなみに敢闘賞は平山君でした。皆様のご協力で2年間の幹事役を無事終えることが出来ホットしています。今後はいろいろ問題点もありますが石田君(H6年度幹事)がしっかりやってくれるものと信じています。ありがとうございました。

幹事 平山英則

あかんBABY 68. China

「ウソのようほ本当の話?！」



● 甦れ! 歴史人物100選 (表紙説明) ●

今回は、夜間延長オープンをしているグラバー園のご紹介を兼ねて、グラバーことトーマス・ブレイク・グラバーとその息子、倉場富三郎の二人をご紹介します。グラバーはご存じのとおり、貿易商として幕末から維新にかけて活躍した志士たちを物心両面で支援しました。その息子、トミーこと倉場富三郎も日本の水産業の近代化に大きく貢献しましたが、戦争という時代の荒波の中で翻弄され、華々しい世界で活躍した父とは対照的に悲劇的な運命をたどりました。

人物紹介

トーマス・ブレイク・グラバー

(1838 天保9~1911 明治44)

スコットランドの漁村フレーザーバラで生まれ、上海を經由し1859年(安政6年)21歳で長崎の地を踏んだ。幕末から維新にかけ武器の取引等で業績を伸ばす一方、倒幕運動を擁護し日本の近代化に大きく貢献した。維新後は貿易業から退き、三菱の顧問となり造船業の発展に貢献した。ジャパン・ブルワリー・カンパニー(後のキリンビール)を発足させたのもグラバー達であった。

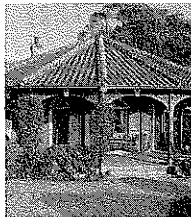
倉場富三郎 (1870 明治3~1945 昭和20)

明治3年グラバー商会倒産後に長崎で生まれ、明治17年東京の学習院に入学し、米国に留学した。長崎に戻り、長崎汽船漁業で専務取締役を務め、トロール漁業、遠洋漁業等、水産業の近代化に大きく貢献した。また「グラバー魚譜」と呼ばれる学術的に貴重な水彩画の写生図コレクションを残した。しかし、第2次世界大戦が激化するなか、憲兵隊の監視下におかれ、原爆の投下後終戦を迎えたのち自ら命を絶った。

ゆかりの地紹介

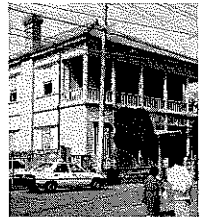
グラバー邸

南山手;グラバー園の中に当時の面影を残すグラバー邸。ここはグラバー達の生活の場であり、商取引の場であり、維新の志士達の隠れ家ともなった。



出島資料館(急内外倶楽部)

出島町;現在一般に公開されている出島資料館は、富三郎自身の案で設計された「内外倶楽部」の建物であった。長崎の経済人、文化人の社交の場であった。



※9月はグラバー園が市民に無料で開放されます。普段近くでありながらなかなか足が向かないあなたも、家族サービス等を兼ねて訪れてみてはいかがでしょうか。